

# 都市農村交流の仕掛け人

有田地区炭焼き保存会  
koge 遊夢会

現状を打開し賑わいを起こすため、グリーンツーリズムの取り組みに、集落皆さんの期待が込められているのです。

## 今、有田が熱い

**炭** 焼き窯の伝統を受け継ぎ、炭焼の体験を通じて都市住民との交流を進めたいと奮起する「有田地区炭焼き保存会」代表の中尾健さん。同じく、椎茸の駒打ちや収穫体験を活用した交流活動で有田に新しい風を巻き起こしたいと意気込む「koge 遊夢会」代表の中野徳三さん。ふたりの熱意は、やがて集落全体を巻き込み、昨年5月には、有田地区グリーンツーリズム研究会が立ち上がるなど、急展開を見せています。わずか11戸にまで減少した有田では、遊休農地や空き家の増加が、とても深刻な問題となっています。この



## 将来、娘を上毛町に嫁がせます

**巢** 雁山（通称「有田富士」）の麓に位置する有田は、遠く周防灘を一望できる素晴らしい眺望景観と、落ち着いた田園風景を併せ持ち、近年では、別荘を構える方もいるほどの魅力的な地域です。

また、平成23年3月に開催された友枝地区里山民泊モニターツアー（主催 福岡県）では、呼び掛けに賛同した有田と東下の4戸が初めての民泊受入経験をしました。このとき、受入家庭のおもてなしに深く感動した参加者から「将来、娘を上毛町に嫁がせます」という感想が飛び出すなど、予想以上の反響がありました。このことは、過疎化が深刻な上毛町にとって明るいニュースとなり、グリーンツーリズムに対する機運が急速に高まってきました。

## 有田地区農村民泊モニターツアーが実現

**有** 田を都市農村交流で盛り上げたいという中尾さんや中野さんの思いが形になりました。有田におけるグリーンツーリズムの可能性を探るため、「泊」目のモニターツアー（主催 上毛町、有田地区グリーンツーリズム研究会）が開催されることになったのです。3月3日（土）は、北九州



を中心に、福岡都市圏、遠くは久留米市から10組25名が有田に集まりました。参加の動機を尋ねてみると「農業、農村体験がしたい」「子どもに体験させたい」「日常生活と違う空間に浸ってみたい」など、田舎体験への関心の高さがうかがえるものでした。

炭焼き体験が始まり、白煙が上がりますと、長閑な風情を醸している中尾さんの炭焼き小屋には、人だかりができていました。都会の生活にないものは「珍しい」「田舎らしい」と興味津々のようです。原木の桎が木炭になる作業手順や、窯の構造、室内温度など、参加者からは質問が相次ぎ、中尾さんは炭焼きの難しさとともに説明をしていました。一方、中野さんは椎茸の原木栽培をしている山を案内しました。あいにく、今年の椎茸は不作ということで、収穫体験はできませんでしたが、参加していた親子は作業車の荷台に乗って林内を移動するなど、普段は味わえない緑の中の空間を楽しんでいました。



好評だった巣狩ライブ



## 参加者の反応とこれから

**参** 加者の感想では、農産物の収穫をはじめ、自然豊かな空間、素晴らしい眺望、動物の鳴き声などに感動したという声が多く寄せられましたが、中でも「人懐っこくて温かくて良い人ばかり」「人が度でも訪れたい」など、地域が一体となっていく温かいおもてなしに感謝するものがありました。温厚篤実で元氣な「上毛人」の気立ての良さが、都市住民にとって一番の魅力なのかもしれません。

今回、有田におけるモニターツアーを陰で支えていた御婦人たちには、当初、戸惑いがあったようですが、ツアー当日、活き活きとした笑顔で食事のサポートをされている皆さんの姿がとても印象的でした。有田有志の意気込みは、集落を挙げての活動に発展しています。今後の展開がとても楽しみです。

